「Going」は周年を迎えたり、新たな展開に向けて節目を迎えた企業・団体を紹介する広告シリーズです。

高知工科大・起業マネジメントコース

新たな価値の創造目指す

働きながら学べる社会人のための大学院に——。高知県公立大学法人・高知工科大学（磯部雅彦学長）は2017年4月、社会人を対象にしたこれまでの「起業家コース」を「起業マネジメントコース」に改称する。近年、中小企業の第二創業や事業承継、NPOによる社会的事業立ち上げ、行政による地域活性化事業など、「起業」の研究分野は大きく広がってきた。このような状況下、新たなコースの目指すところ、その教育内容、求める学生像などについてコース長の那須清吾教授に話を伺った。

（聞き手＝高知新聞社広告局長・小松誠昭）

那須清吾教授

「社会人のための大学院」

実務経験と学問融合

ニーズに応える

——起業家コースを「起業マネジメントコース」に改称する背景は。

那須 本学は1999（平成11）年4月、社会人を対象に「起業家コース」を設置しました。当初は主に「工学技術者が自分の技術を生かして業を起こす」、あるいは「既存の企業内で新事業を始める」ことの支援を目的としていましたが、時代の流れとともに、多様な分野から幅広い年齢層の方が集まって来るようになりました。その結果、研究分野が大きく広がり、工学技術にとどまらず、さまざまな分野においての「価値創造」や「課題解決」に向けての研究も行われるようになりました。

そこで、これからの脱成長時代において先駆けとなる「社会人のための大学院」として、マネジメントを中心とした教育に本格的に取り組むとし、コース名も「起業マネジメントコース」に改称する運びとなりました。

——改めて高知工科大学が考える「起業」について教えてください。

那須 本学が提唱する「起業」とは「価値創造」、すなわち新しい価値を創造することにほかなりません。別の観点からいえば、世の中に対して常に新しい価値を提供し続けることでもあります。「起業＝価値創造」と捉えることで、既存の企業が抱える事業創造、業態転換、経営革新などさまざまな課題解決に向けた取り組みも対象となってきています。

本コースでは、技術と経営とを融合した「起業工学」という従来の概念は根底に残しながらも、さらに多様な分野で課題解決や価値創造を行うことのできる人材の育成を目指します。

志に対応した体制

——「社会人のための大学院」をうたっていますが、その特色は？

那須 学部の学生と違い、社会人は抱えている問題、課題が明確で、本コースはその問題にフレキシブルに対応することができます。多彩な教員、が少人数制による丁寧な研究指導を行うことで、社会人としての経験を活かしながら、課題解決や価値創造に向けた実践力を身に付けます。

教員の専門分野は経営学に限らず、工学、理学など自然科学にも広く及び、おのおののニーズに合った教員を選んで学ぶことも可能です。取り組みたい分野の専門家がコース内にいない場合は、学内全体でバックアップし、場合によっては学外の専門家を招くことも想定しています。

——社会人教育の意義についてはどのようにお考えですか。

那須 これからの社会において、ますます重要になってくると思います。先行き不透明な現代社会、しかも混沌として見通しがつかない時代にあっては、従来型の教育では先に進むことが難しいのではないでしょうか。高知でいえば産業振興、地域活性化などの課題を、民間企業も行政も抱えています。その中で課題を解決したい、新たな価値を創造したいと思っていても、方法論がなければ解決することができません。本コースはそのような社会人のニーズに応えていこうというものです。学んだ成果を社会に広く還元していく意義は大きいですし、まさに時代の要請に応えるという意味でも本コースの役割は重要と考えます。

身に付く能力とは

——知識や理論を伝達するだけの教育ではないということですね。

那須 本コースでは知識を増やすだけではなく、研究、分析を行うことで、ソリューションの構築や課題解決の方法を見いだしていきます。つまり、「概念」ではなく「原理」を教えるという点が、ビジネススクールの教育とは根本的に違います。原理を学ぶことで「応用」ができるようになります。そのプロセスを教員と共有することで方法論を体得することができ、別の「公式」がつくれるようになるわけです。そして公式を活用し新しいソリューションをつくり上げていくことも可能となります。その結果、多様な分野で課題解決や価値創造を行うマネジメント能力を獲得できるのです。

——具体的にはどういうことですか？

那須 例えば、新事業のプランがある場合、それがビジネスとして成立するかどうか、成立するとしたらどのようなプロセスを経るべきか、どういうモデルなのかを一緒に分析、研究します。あるいは技術開発をして商品化を目指す場合、技術開発そのものをどうやってマネジメントしていくかを研究します。

観光振興を例に挙げるならば、ある大学院生が桂浜に来ている観光客を調査したところ、大半の人が「龍馬像に関係なく桂浜に来た」との結果が出ました。また、そもそも、ほとんどの人が「食」に引かれて来高したとの結果も出ました。地元の方は「坂本龍馬」や「四万十川」を目的に観光客は来高していると思い込みがちですが、実際は異なっているケースが多いわけです。

経験や勘に頼るだけのビジネスには限界があります。高知の経営資源と観光客のニーズをどのように結び付けていけばよいのか、研究、分析を行い、理論化してビジネスとして組み上げることで観光振興、地域活性に結び付ける試みが必要です。

強みは「経験」

——大学院は学部での学びを深めるイメージがありますが、経営学を勉強したことのない人でも入学できるのでしょうか。

那須 そのような方のために経営学の基礎科目から応用まで一貫して学べる教育プログラムを作成しています。実務を経験し、問題に直面している社会人は、科目を履修すると自身の課題にすぐ気づくので、教育効果はとても高いといえます。そういう意味でも本コースは社会人の強みを発揮でき、有効に使ってもらえるコースであると思います。

——具体的な学びの仕組みを教えてください。

那須 授業は、基本的に土曜日または日曜日の3日間（3週）で1科目を集中的に学び、単位を取得する講義スケジュールです。「週末短期集中型授業」を導入していますので、多忙な社会人も働きながら学び続けられます。修士、博士の学位取得も可能です。

授業は高知教室（永国寺キャンパス）、東京教室（港区芝浦）、大阪教室（北区中之島）の3教室をテレビ会議システムでつなげ、双方向による遠隔授業を行っています。学生は高知、東京、大阪のいずれからでも参加でき、リアルタイムで講師と質疑応答が可能です。

また、授業では社会人学生ならではの多様な社会経験に基づく相互の意見交換が重視されます。年数回開催される研究発表や審査会ではそれぞれの研究企画および研究成果をめぐって、教員はもとより学生相互も活発な議論が交わされます。

——どんな社会人に入学してもらいたいですか。

那須 業界、業種や立場は問いません。あらゆる方々に本コースで学んでいただきたいですね。実際、現在の在学生も経営者、会社員、行政職員、起業家とさまざまです。また、年齢も偏ることなく幅広い年齢層の方々が学んでいます。修了生の中には、経営者の方で新規ビジネスに参入したり、会社員の方では社内で新事業を立ち上げたりと、それぞれの立場で「学び」の成果を生かしておられます。

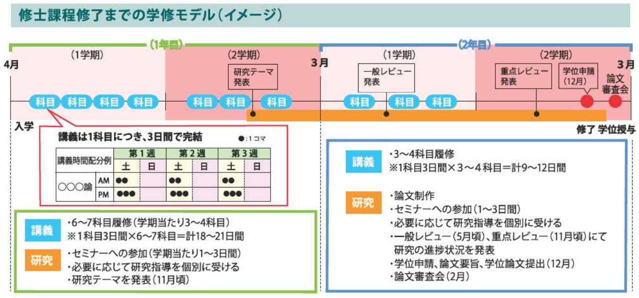
技術経営、事業開発、事業継承、地域活性などの社会人のニーズに応える体制と対応科目は整えています。複雑な現代社会にあって、多様なバックグラウンドを持つ学生とさまざまな分野の研究を深めることが、本学が提唱する「起業＝価値創造」につながると確信しています。

交通アクセスの良い都市型キャンパス（高知市永国寺町の永国寺キャンパス）

科目一覧

基礎
研究方法論
技術経営論
財務会計
マーケティング戦略
経営戦略論
組織論

応用
起業工学概論
人的資源管理
経営者論
消費者行動論
プロジェクトマネジメント
組織経営論
社会調査法
実践プロジェクト演習
地域産業振興論



企画・制作／高知新聞社広告局

高知工科大学 新聞著作物使用許可済み